

「まちの風土を編む」 新たなつながりによって富谷の文化を育てる拠点をつくります

■持続可能な地域の拠点をつくる

全国のニュータウンは一斉高齢化や人口流出などの課題を抱えています。大規模な住宅地の多い富谷市では、これら将来課題を見越したコミュニティ・文化づくりが重要です。私たちは新施設をデジタル田園都市のような持続可能な地域を実現するひとつの拠点と位置付け、健全な世代循環や経済循環を生み、まちへの愛着を育てる場をつくります。

■富谷の各地域のポテンシャルを「編む」

富谷市では 70 年の向陽台団地の開発を皮切りに現在に至るまで、継続的に宅地開発が行われてきました。開発年が異なり地理的にも分散しているため、各地域のコミュニティや活動に、まち全体として繋がりをつくるのが重要だと考えます。そこで私たちはまちじゅうの活動に接続し、世代の繋がり、コミュニティの繋がり、活動の繋がりといった多様な関係を「編む」施設・仕組みづくりに取り組みます。



業務への取組体制、設計チームの特徴

実績豊富なメンバーと密なコミュニケーション

■公共図書館や複合文化施設の経験が豊富な管理技術者
管理技術者はこれまで、8つの公共図書館設計に携わっており、設計から発注・運営段階まで、広い視野で見据えて取り組みます。

■公共施設・環境建築の実績多数の技術力の高いチーム
複合的なプログラムの建築計画や高度な構造・環境解析など、本計画に求められる知見や技術力に対して、十分な経験と実績のあるチーム構成とします。

■スムーズな意思疎通が可能なチーム体制
これまでも協働経験があるメンバーを中心としたチーム構成とし、それぞれの専門性を活かしつつ、密なコミュニケーションによりスムーズに連携して取り込みます。

設計チームの体制

MARU. architecture

豊富な類似実績



協働経験

SfG



市民参加プロセスへの取組



Arup

高度な専門性



積算
家具
デザイン
サイン
グラフィック

コスト管理手法

合理的なコストバランスと確実なコスト管理

■全体面積の約1割合理化によるコストの適正化

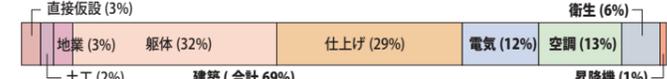
急激な物価高騰により、想定事業費内とする為の合理化が必要だと考えます。座席や諸室の共有やコンパクト化により、必要機能を維持しながら全体面積を約1割合理化することを提案します。

面積合理化の想定

	基本方針㎡	今回提案㎡
図書館	1,300	1,200
児童遊戯	800	700
スイーツ	300	200
管理/共用	560	500
合計	2900	2600

■コストバランスの適正化

経験豊富な積算主任技術者が中心となって同種施設のコスト実績値や最新の物価動向を分析し、適切なコストバランスを検討しながら計画を進めます。



■物価変動に対応する定期的なコストチェックの実施

昨今の急激な建設資材の高騰の状況への対応をふまえ、設計の初期段階から定期的に概算工事費の算出を行い、コストチェックの内容を計画に反映しながら進めます。

■全体事業費を見据えたコストコントロール

建設費に加え、備品やシステム整備費、光熱水費・人件費など、トータルな事業費の試算を行います。事業費全体を見据えることで、メリハリのある計画となります。

■補助金取得等の支援

豊富な公共施設設計の経験を活かし、各種補助金の取得にあたって、必要となる検討や資料作成を支援します。

業務スケジュール

的確なマネジメントによるスケジュール管理

■管理技術者による全体マネジメント

これまで数多くの公共施設設計に携わってきた管理技術者の経験を活かし、事業全体を見通したマネジメントによって、複雑な与件を的確に整理して進めます。

■ホールドポイントの管理とタスクの明確化

設計の節目となるホールドポイントを段階的に設定し、また、検討事項と決定時期をリスト化することで、常にスケジュールを関係者間で共有しながら進めます。

■目的に応じた会議体の設定

関係者全員が集まる「全体会議」を軸にしながら、機能・専門性に応じた「分科会」を使い分けて進めます。

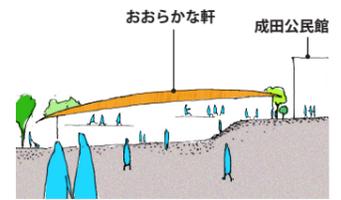
設計スケジュール案

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
建築計画	配置・ゾーニング計画	平面・断面計画	立面・構造・環境計画	調整	設計図書作成		
法令関係	関連法規チェック・リスト作成				事前協議		
積算		超概算	調整		概算	調整	
事業計画		備品等項目取り纏め	超概算	調整	備品等項目再整理	概算	調整
協議	プロボ案説明 課題共有		必要機能 取り纏め	事業規模 方針確定	管理運営 方針確定		基本設計案説明 課題共有
全体会議							
分科会	必要機能ヒアリング・調整		管理運営方針ヒアリング・調整				
図書館							
児童遊戯							
スイーツ							
個別課題							
規模 (冊数、席数)、配架計画、企画計画、管理運営計画、広域連携など							
企画計画 (常設遊具、想定年間工程など)、管理運営計画、事業計画など							
企画計画 (想定年間工程など)、管理運営計画、事業計画など							

基本コンセプト

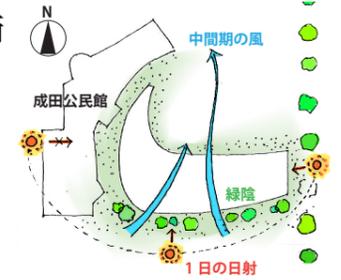
1 「風景を編む」 おおらかな軒

富谷の美しいケヤキ並木の中に佇み、まちじゅうの人々を受け止める、おおらかな軒に包まれる建築をつくります。おおらかな軒は、既存の公民館やランドスケープとつながり、それぞれが有機的に連携する関係をつくります。



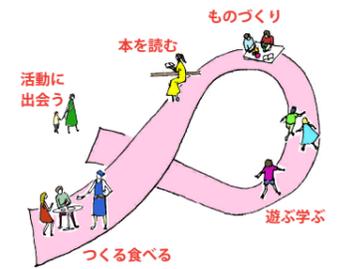
2 「環境を編む」 多環境の居場所

富谷の豊かな自然環境に寄り添い、そのポテンシャルを最大限に活かした建物配置や、空間構成、省エネルギー計画とします。敷地の内外に、誰もがそれぞれ快適に過ごせる変化に富んだ環境をつくることで、インクルーシブな空間とします。



3 「活動を編む」 立体回遊空間

敷地の傾斜を生かした立体的な回遊動線により、複合機能を繋ぎ、それぞれの活動が融合するきっかけをつくります。様々な場が編み込まれて交わる空間は、訪れた人が自然に新たな情報に出会い、活動し、発信する文化のサイクルを生みます。



富谷市や富谷市民とのコミュニケーションや意見の設計への反映方法

対話を重視した設計プロセス

■顔の見えるコミュニケーション

業務にあたっては、管理技術者が窓口となり、富谷市のご担当者様との顔の見えるコミュニケーションを重視します。対面とオンラインを併用して、日常的にきめ細やかな連絡が可能な体制とし、幅広い検討内容に対応します。

■これまでの市民参加の経緯をふまえた対話の場づくり
開館以降永く市民の皆様が愛着を持って関わることでできる施設・コミュニティづくりを目指します。これまでの市民参加の経緯をふまえた上で、設計の内容をわかりやすく共有する場や、管理運営に市民が関わるサポート組織づくりの場など、対話の場づくりを行います。